

高等教育機関における e ラーニングを活用した 教育活動を支える組織支援体制

——「大学 e ラーニングマネジメント (UeLM) モデル」の提案

宮原 俊之^{*,**}, 鈴木 克明^{**}, 阪井 和男^{*}, 大森 不二雄^{**}

A Proposal of the “University e-Learning Management (UeLM) Model” for Supporting Instructional Activities of e-Learning at Higher Education Institutions

Toshiyuki MIYAHARA^{*,**}, Katsuaki SUZUKI^{**}, Kazuo SAKAI^{*}, Fujio OHMORI^{**}

Systematic organizational support is necessary to use e-Learning effectively at higher education institutions. This paper suggests the “University e-Learning Management Model” which considers the characteristics of management structure of higher education institutions and the problems of e-Learning. The model has been created based on prior research and our experiences and gone through revisions by applying to e-Learning management of a college in two iterations. Empirical data confirmed the effects of the Model on improved communication and better reaction among stakeholders.

キーワード：e ラーニング, 教育支援, 組織設計, 高等教育, インストラクショナルシステムデザイン

1. はじめに

文部科学省中央教育審議会が平成 17 年 1 月 28 日に発表した答申「我が国の高等教育の将来像」や、平成 20 年 12 月の総会でとりまとめられた答申「学士課程教育の構築に向けて」にみるように、高等教育は「教育（活動）の多様化」に対応するために「教育改善（見直し）」を行うことが求められている。教育改善を実現するためには、教育活動を構造化し役割分担を確実に行う必要がある。また、答申の中では「双方向型の学習の展開が重要」とも指摘されており、e ラーニングを活用した教育活動を効果的に実施することに対する期待が高まっている。「日本の高等教育機関の構造問題」と「e ラーニング特有の問題」を分析した研究⁽¹⁾からも、e ラーニングを活用した教育活

動（教育改革）を効果的に実施するためには、教育活動を構造化し専門家の配置と役割の分担が重要であることが指摘されている。しかし、現実的には、アメリカのように大学における e ラーニングを支える支援体制が確立され役割が明確になっている国とは違い、日本の大学には e ラーニングに関する専門家の雇用実績が少なく、それが一部の教員の負荷を高めることになり、活用を阻害している⁽²⁾⁽³⁾。

わが国の大学における e ラーニングの組織的な支援体制の確立を目指した取組みとしては、青山学院大学が発表した ADDIE モデルに準じた形で各フェーズに専門家を配置する「e ラーニング専門家 5 職種」⁽⁴⁾がある。この 5 職種の同定で支援体制に必要な専門職が明らかにされたが、これらの専門職を配置することに加えて、以下に述べるようにそのマネジメントや

*明治大学 (Meiji University)

**熊本大学大学院 (Graduate School, Kumamoto University)

受付日：2009 年 9 月 22 日；採録日：2009 年 12 月 3 日